

Case 19-2005: A 17-Year-Old Girl with Respiratory Distress and Hemiparesis after Surviving a Tsunami
(New England Journal of Medicine 2005;352:2628-36)

※ この症例は、2004年12月26日に発生したスマトラ島沖地震・インド洋大津波において、MGHが派遣した臨床応答チームが、ボランティアのHOPE (Health Opportunities for People Everywhere) プロジェクトとの活動において行ったカンファレンスで検討されたものである。

【患者】17歳女性 【主訴】呼吸困難、片側不全麻痺

【現病歴】

生来健康であったが、7週間前に家の外(海岸から2.5 km)にいたところを津波に襲われ、1 kmほど流された。その間に意識を失うことはなかった。国内避難民キャンプに参加していた友人たちに発見され、親戚の家に連れて行ってもらった。津波から2日後、出現してきた咳を診てもらうために近くの診療所に行き、治療された(註:詳細不明)。

その翌週、彼女は父親と再会した。頭痛・嘔気・嘔吐が増悪してきて、食欲も低下したため、津波から約2週間後、父親が患者を診療所に連れて行った。肺炎と診断され、薬剤(詳細不明)を処方された。

その1週間後(入院の約4週間前)、顔の右側、右上肢、右下肢の筋力低下が進行してきた。患者は言葉を発さなくなり、嚥下が困難となり、食事中に息苦しくなることもあった。そのため、国際赤十字・赤新月病院に搬送された。低血圧および右半身の弛緩性麻痺を認めたほか、胸部X線撮影にて肺野に浸潤影、右側に少量の胸水を認めた。メロペネム(カルバペネム系抗菌薬)およびST合剤による治療が開始されたが、右半身の筋力低下はますます悪化した。

入院前日、患者はZainoel Abidin大学病院に転院となった。身体診察にて右上肢・右下肢の弛緩を認め、反射は右側が左側より亢進していた。胸部X線撮影にて浸潤影・右側胸水を認めた。脳脊髄液所見は赤血球数400/μl,白血球は認めなかった。細菌・抗酸菌・真菌についても陰性であった。さらなる精査のため、バンダ・アチェ(スマトラ島北端)沿岸の病院船(米国海軍の船“Mercy”で、MGHのチームが治療を行っていた)に転院となった。

【既往歴】特になし。成長・発達も正常である。

【アレルギー】なし。

【ワクチン歴】不明。

【家族の状態】父親と2人のきょうだいは生きていて元気だが、母親と1人のいとこは津波で死亡した。

【入院時現症】

[バイタル等] 意識ははっきりしており診察には協力的であるが、感情の表出に乏しく、視線を合わせようとしない。年齢よりもやや若く見え、発達段階の指標Tanner stageでは2~3である(註:第二次性徴の中期くらいと思われる)。体温37.0°C, 血圧109/66 mmHg, 脈拍112 bpm, 呼吸数20/分(少し鼻翼呼吸がみられる)、SpO₂ 93% (room air)。

[頭頸部] 眼底所見は正常である。口腔粘膜が乾燥している。

[胸部] 右下肺野および左肺底部で呼吸音が減弱している。左肺底部に crackles および rhonchi を聴取する。

[四肢] 四肢に冷感があり、Capillary refilling time は4~5秒と延長している。

[神経] 簡単な命令には従えるが、ほとんど話そうとしない。言われたとおりに言葉を繰り返すことをせず、指されたものの名前を言うのが困難である。瞳孔は両側で円形であり、瞳孔反射・外眼筋の運動は正常である。右側顔面の麻痺、右上肢・右下肢の弛緩性麻痺を認める。触覚は正常で、反射は右側(+++), 左側(++)である。右側で **Babinski** 反射が陽性であった。歩行・姿勢は未検であるが、残りの検査結果はすべて正常である。利き手は右。

【検査所見】

[血算・生化学] 電解質、腎機能、肝機能は正常である。他の検査値は **Table 1** を参照。

[胸部 X 線] 下の **Figure A** に示したように、

()

胸腔ドレーンを留置したところ、黄色く濁った胸水が採取された。

[胸水の所見] グルコース 93 mg/dl, 蛋白 4.0 g/dl, LDH 901 U/l, 白血球 211 / μ l (多形核球 79%, 単核球 12%, 好酸球 9%), 赤血球 1210 / μ l であり、グラム染色・抗酸菌染色・真菌に対する染色では特異な病原体を認めなかった。

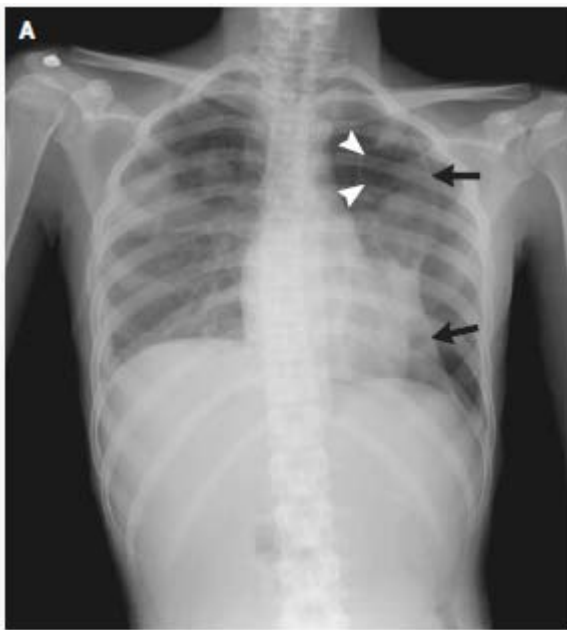


Table 1. Hematologic Laboratory Findings.		
Variable	Day of Admission to U.S.N.S. Mercy	Third Hospital Day
Hematocrit (%)	50.3	25.4
Hemoglobin (g/dl)	17.3	8.8
White-cell count (per mm ³)	6,300	8,200
Differential count (%)		
Neutrophils	45	61
Lymphocytes	45	27
Monocytes	4	4
Eosinophils	5	7
Basophils	1	
Platelet count (per mm ³)	163,000	382,000
Mean corpuscular volume (μ m ³)	83.0	



図 2-2 参照 : 『超巨大地震がやってきた』
木股文昭 他 著、時事通信社

図 2-2 SPOT2 の画像で示された被災直後のバンダアチェ付近
Includes material ©CNES2005, Distribution Spot Image S.A., France, all rights reserved.

この後、再度胸部 X 線撮影を行ったところ、気胸には改善がみられ、左肺はほとんど最大限に拡張していた。ここで、ある診断的手技が施行された。

- プロブレムを挙げてください。
- 日本と比べると？